

巻頭言

今後のJIPPOへの期待と願い

JIPPO 副理事長 山下 義円

JIPPOが設立し、本年11月で10周年を迎えます。その間、平和と貧困を考えることをひとつの目標とし歩んで参りました。災害被災地の復興支援もそのひとつです。

2010年から2011年は、ハイチ、チリ、中国青海省の大地震、パキスタン、スリランカの洪水、そして東日本大震災と続けて大きな災害が起きました。

JIPPOは、パキスタン洪水災害復旧として、北部スカルドゥ郊外で防水壁を設置する支援を行いました。その際、この地域は安全な飲料水の確保が重大な課題であることを知りました。貧しい村には上下水道のシステムが無く、川や遠く離れた井戸から水汲みをして飲用水にしていました。安全な水でないため、慢性的な下痢や、急性疾患を患っている人が大勢いました。また、水汲みは、女性や少女らの仕事で、そのことに時間をとられ、学校に通うことすら難しい状況だったのです。

そこでJIPPOは、洪水から2年後、パキスタン・クアルド村で飲料水供給のためのハンドポンプ設置のプロジェクトを実施しました。村内14カ所にハンドポンプ付きの井戸を設置し、それを管理運営する住民組織を構築しました。日本人の専門家も派遣し、保健衛生の啓発活動や、女性

保健衛生指導員の育成と講習会を実施しました。それにより女性や子どもたちの水汲み労働が軽減され、安心して水が飲めるようになり、手洗い、歯磨きといった生活習慣も身につくようになりました。

2013年は、台風30号ハイエン(現地名:ヨランダ)がフィリピン中部を横断し、死者6千人、家屋損失者190万人を越える大きな被害が出ました。JIPPOは翌年3月、浄土真宗本願寺派「たすけあい運動募金」の依頼でサマル、レイテ島の被災状況を調査し、沿岸部から離れ、支援から取り残されていたレイテ島の北部、サンインドロ町のサンブラワン小学校の再建支援を提案しました。これが草の根活動にふさわしいと選ばれ、2014年よりプロジェクトを開始しました。2016年4月の小学校竣工式には、役員・会員でツアーを組み、元気いっぱいの子どもたちとふれあい、完成した建物の視察を行いました。子どもたちが安全な環境で勉強ができるようになったことは何よりの成果であったといえるでしょう。

また、国内においては東日本大震災復興支援「菜の花プロジェクト」をはじめ、風評被害を払拭する活動として東北の物産や菜種油の販売協力を続けています。さらに、龍谷大学ボラン



ティア・NPO活動センターとの共同事業として京都市内の野宿者に対する支援活動も行って参りました。

JIPPOは、まだまだ数多くの事業を手がけてきましたが、もうひとつ大きな成果を上げる為には、きめ細かく、その支援を永く続けていくことが大切です。これをどのようにすれば実現できるのでしょうか。今、浄土真宗本願寺派では、重点プロジェクトで「貧困」をテーマに活動を始めました。今後のJIPPOも、貧困を活動のテーマとしている宗派重点プロジェクトと一緒に活動していくことが、きめ細かく、その支援を永く続けていける一番のよい方策ではないかと思います。JIPPOが11年目を迎えるにあたり、益々の進展と、より充実した活動を期待したいと思います。

JIPPO10年の事業活動概要

JIPPOは、今年11月、発足10周年を迎えました。母体である浄土真宗本願寺派は、国内外で困難な状況にある人々に寄り添う事業を行ってきました。その一環として「たすけあい運動募金」や「ダーナ献金」など宗派の募金活動に託された多くの方の思いを直接的な支援活動に生かすべく、宗教活動をしていないNPO法人を設立しました。この10年間にJIPPOは多くの人と出会い、地域が抱える問題に気づかせてもらい、共に解決への糸口を探り、困難や喜びを分かち合う活動をしてきました。十方の名の通り、私たちを取り巻くすべての人びとがこの輪の中で繋がっています。これからもJIPPOは「世のなか安穏なれ」という大きな目標に向かって、地道に努力します。

スリランカでの活動

スリランカ ウバ州の紅茶生産者の貧困と生活改善に向け、紅茶のフェアトレードと地域の幼児教育支援に取り組みました。2013年からは小規模自営農民を育成し、紅茶産業による地域開発に取り組んでいます。また、北部ヴァブニアにある戦災孤児院の支援も行いました。

【ハプタレー地区幼稚園支援】

2009年～2010年 ハプタレー市立幼稚園増改築(トイレ、手洗い場、多目的ステージの増築、園庭の整備)

2010年3月 タミル語による幼稚園教員研修

2011年3月 シンハラ語による幼稚園教員研修(日本人保育士派遣)

2014年8月 ハプタレー市立幼稚園オーディオ機材支援

【セト・セバナ孤児院支援】

2011年、洪水被害復旧緊急支援

【ハルドウムツラ地区ハンドメイド・ティー(ワンゲディ・ペコー)開発事業】

2013年12月 小規模自営農民実態調査(JICA次の一歩プログラム助成)

2017年2月 案件調査

2017年4月～生産者組合を設立し、紅茶の試作および生産拠点設置支援を開始。



幼稚園の先生に紙人形劇を教える

フィリピン 2013年台風30号「ヨランダ」災害復興支援

【サンブラワン小学校再建プロジェクト】

2014年3月 東ヴィサヤ地方 サマール州およびレイテ州 被害調査

2014年度 実施地およびカウンターパートの選定、現地踏査(レイテ島のサンインドロ町のサンブラワン小学校校舎再建に決定)

2015年6月 校舎建設起工

2016年2月 ろ過装置付きハンドポンプ井戸の設置

2016年4月 建物譲渡および竣工式(理事、会員8名参列)



宗派たすけあい運動募
金と仏教婦人会総連盟
のダーナ献金によって
再建された校舎

パキスタンでの活動

2010年の洪水災害復旧でパキスタン北部のスカルドウにおいて防水壁の建設を支援したのをきっかけに、井戸を設置する事業を行いました。

2010年 パキスタン北西部洪水災害復旧支援

2013年 「ケルド村の飲料水供給のためのハンドポンプ設置事業」(日本国際協力財団助成)

2016年7月 評価実施



設置した井戸

ミャンマー寺子屋 給食支援

ミャンマーでは、2009年、2010年にヤンゴンの寺院が運営するヤンゴン「シュエ・ジン」寺院初等教育施設に学用品や給食を支援しました。

東日本大震災復興支援

震災後、JIPPOは福島第一原発事故で被災した福島県南相馬市を中心に支援活動を行ってきました。最初の3年は子どもたちの野外活動を実施し、その後ナタネ栽培による農業の再生を支援しています。

【緊急支援】

2011年 福島県立相馬高校エアコン寄贈(築地本願寺および東京教区教務所からの寄付により38台寄贈)

【南相馬市の子どもたちの野外活動】

2011年～2013年 長野県諏訪郡富士見町(多摩市八ヶ岳少年自然の家)、京都市京北町、浄土真宗本願寺派山科別院、富山県中新川郡伊折(靱青少年研修センター)、北海道雨竜郡幌加内町朱鞠内(シュマリナイ湖ワールドセンター)、深川市多度志一乗寺で、計5回、158人を受け入れ

【菜の花プロジェクト】

2013年10月 種まきイベント。以降5月のお花見イベントを実施

2014年4月 南相馬農地再生協議会設立、参加

2014年 同協議会、南相馬産菜種油「油菜(ゆな)ちゃん」発売

2015年 ファーム蛸沢、南相馬小高産菜種油「浦里の雫」発売

2016年 「オオイチョウ×菜の花オイル 手づくり石けんプロジェクト」



川遊びを楽しむ子どもたち

京都市内 野宿者支援

龍谷大学ボランティア・NPO活動センターとの共同事業として、東高瀬川、西高瀬川、山科川を巡回し、野宿者を訪問。その他個別の生活相談や、全国地域・寄せ場交流集会の運営、東本願寺前での野宿者らと新年を祝う「もちつき大会」等を、市内の支援団体と協力して行っています。

フェアトレード

設立当初より、スリランカの紅茶および東ティモールのコーヒーのフェアトレードを実施。生産者と公正な貿易を行い、生産者の貧困に取り組むとともに、私たち自身の生活を考える啓発活動や、法人の収益事業の側面を併せ持っています。

また、南相馬産の菜種油「油菜(ゆな)ちゃん」や「浦里の雫」も、被災地の農業再生や持続的な環境を支援するJIPPOのフェアトレードの一環として位置づけられます。



カフェティモール



ウバ紅茶

スタディツアー

JIPPOは、人々が直接交流することによって、他者の問題を我が事として捉えることがすべての問題解決の基本と考えています。スタディツアーは共に生きる社会について学ぶ機会を提供する重要な活動のひとつです。

【実施実績】 スリランカツアー8回、東ティモールツアー4回、タイツアー2回、インドツアー1回、ミャンマーツアー1回、ネパールツアー1回



スリランカの子どもたちとの交流

その他災害救援・復興

世界各地の自然災害に対し、募金活動をし、現地で救援を行うNGOと連携して復旧支援を行いました。

【実施例】2010年チリ大地震、中国・青海省地震、ハイチ地震、2011年タイ洪水等

広報・啓発活動

設立記念「明石康氏講演会」「ヴィーカス・スワループ氏講演会」「被爆ピアノ演奏会」「東ティモール独立10周年記念シンポジウム」等を通じ、貧困と平和を考える活動を行ってきました。

理事長 石上 智康

2008年11月、NPO法人JIPPOは、浄土真宗本願寺派を基盤として発足した。私が理事長に就任したのは、2014年9月24日からである。私以前の理事長は、内外の社会的な貢献を担いたい、という願いから特定非営利活動法人としての多様な事業に取り組んでこられた。フェアトレードやスタディーツアーなど発足以来の活動を行うとともに、東日本大震災の支援事業を続けるかたわら、多様な活動を徐々に貧困削減に集約する方向に向かいつつある。

過去10年間の経験を踏まえ、今後もアジア諸国における国際貢献を主たる課題とし、人びとがともに助け合える社会に向かって活動を推進する所存である。

理事 片山 みどり

仏婦総連盟会長就任に伴い3年半程活動に参加させていただきました。初めての会議では国際的な社会貢献という壮大な活動報告を聞き驚くばかりの私でしたが、フェアトレード商品の積極的購入等を通じ少しでもお役に立ちたいと思うようになりました。御正忌報恩講バザーの品物集めでは仏婦総連盟評議員を通じ多くのご協力をいただきました。役員として活動に参加した事で大切な事に気付かせていただいたように思います。合掌

理事 北村 眞智子

仏教婦人会総連盟会長としてJIPPOと関わってから早9年が経ちました。その間、東日本大震災を体験し、JIPPOの「菜の花プロジェクト」の活動に南相馬へ何度も足を運びました。仙台での全国仏教壮年大会会場でフェアトレードのコーヒー、紅茶の販売し、地道にこつこつ育ててきた活動を皆様にお伝えできましたことも、大きな喜びでした。「人と人との関わりの中での社会貢献」という大きな目標に近づきつつあると感じており、継続することが大切だと思っています。



インドアーナンダ病院

理事 藤井 寿昭

心に強く刻まれていることは東日本大震災。ボランティア、復興支援に参画をしながら、その中で人と出会い交わした言葉は、苦しみ悲しみ絶望の響きを持つ言葉。しかし、今はそれが希望や未来を見る力へと変わりつつある。力をいただくことも多々。復興にはまだ時間がかかる。ともに寄り添い、歩みをすすめる活動がJIPPO。私はこれからも出来ることを精一杯続けていこうと決めています。感謝

理事 幸田 昌三

私はJIPPOのスタディーツアーに10年間で3回参加しました。スリランカではハプタレー市立幼稚園の竣工式に参加。インドではアーナンダ病院で奉仕活動を、フィリピンでは台風の被害を受け再建したサンブラワン小学校の引渡し式に立会いました。どこでもキラキラ光る子どもたちの瞳に心を奪われ、この子たちの健やかな成長のためにJIPPOはあるのだと感じました。



福島県南相馬市小高での「菜の花お花見会」

理事 松本 智量

個人的には、東ティモールへのスタディーツアーが印象に残っています。悪路をはるばる越えてコーヒー農家さんの元へ行くと、子どもたちが素敵な笑顔で迎えてくれました。彼らの耳には音楽プレーヤー。宿泊場所でも、近くから若者たちの歌声が。過酷な現況を生きる彼らには、音楽が重要な位置にあるんだなと感じたものです。その他いろいろ、JIPPOは確かに私の世界を広げてくれました。



東ティモールスタディーツアー

理事 若原 雄昭

JIPPO設立10周年おめでとうございます。ほぼ同時期に文科省の助成を得て発足した龍谷大学アジア仏教文化研究センター(BARC)に中村尚司先生も私も研究メンバーとして参加していましたので、相互に連携協力して種々の事業を展開できたことは幸いでした。特に2013年のJIPPO設立5周年記念シンポ「国際貢献する本願寺の人々」や同年のBARCシンポ「アジア仏教の現在IV 躍動する仏教系NGO—その活動と展望—」は有意義でした。



BARCシンポジウム

理事 宮南 靖

仏教伝道協会のシンポジウムで、イスラム教、キリスト教、神道と臨済宗の宗教者の皆様と、信徒さんと共に町に出て大衆の悲しみに手を差し伸べられているお話を聞き、感銘を受けた。我が宗門は、わが身に照らしてそうなのだろうか？子供の貧困をテーマにされる実践運動とのリンクも鑑みながら、ジッポウ理事として仏教伝道協会として常にわが身をかえりみて、僧侶と門徒が心をつなげて進めることに、微力ながら参加していきたいと思う。

事務局長 森田 順照

私がJIPPOを所管する浄土真宗本願寺派社会部に配属になったとき、当法人では、フィリピンのサンブラワン小学校再建事業に取り組んでいました。多くの困難を乗り越え無事再建がなされ、平成28年4月の落成式に参列できることをとても楽しみにしておりました。

しかしながら、同時期に熊本地震が発生し、宗派社会部<災害対策担当>を兼務していますので、現地に赴くことができなかったことが今でも残念で成りません。いずれ機会を見つけて・・・。

役員名簿 (2018年7月1日改選)

役職名	氏名	所属
理事長	石上 智康	浄土真宗本願寺派総長
副理事長	山下 義円	浄土真宗本願寺派総務
専務理事	中村 尚司	龍谷大学研究フェロー
理事	片山 みどり	JIPPO理事
理事	北村 眞智子	JIPPO理事
理事	幸田 昌三	JIPPO理事
理事	藤井 寿昭	JIPPO理事
理事	松本 智量	NPO法人アークス副理事長
理事	若原 雄昭	龍谷大学文学部仏教学科教授
理事	宮南 靖	宗派仏教壮年会連盟理事長
監事	宇佐美 直八	宇佐美松鶴堂代表取締役
監事	疋田 時子	浄土真宗本願寺派聞法会館部長

JIPPOの諸活動を振り返って

専務理事 中村尚司

特定非営利活動法人としてJIPPOを設立する準備過程から今日まで、多くの関係者が力を尽くしてきた。物故者となっている方も、少なくない。この間日常的な活動に参画してきた者は、私ひとりになってしまった。10年を超える歳月を振り返り、将来の参考に供すべく、いくつかの問題点を記したい。

筆者が龍谷大学の経済学部教員として在職中の2004年、浄土真宗本願寺派の射水宗会議員と後藤宗会議員が研究室に来訪された。お二人とも曹洞宗ボランティア会(SVAと略称)の会員であり、西本願寺でも国際貢献するために同種のNGOを設立したい、という話であった。SVAの有馬実成理事長や秦辰也事務局長と親交があった体験から、「宗門との距離の取り方に苦勞されてきたようですよ」と申し上げた記憶がある。SVAはその後、「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会」と名称を変更し、今では日本有数のNGOとして、アジア諸国で活動の輪を広げている。見事に宗門との距離を取り、曹洞宗に付かず離れず、教育の分野を中心に国際貢献を担っている。

龍谷大学を退職した2007年以降、親鸞聖人750回大遠忌の長期事業計画を策定する第4部会の末席を汚し、国際貢献を担うNPO法人の設立にかかわってきた。法人の定款案を見たとき、あまりに多岐にわたる事業活動が網羅されているのに驚いた。原案を用意してくださった松本智量委員(現理事)に尋ねると、いろんな分野で活動できる案にしておけば、あとで活動の範囲を

広げるのに好都合だから、という説明を受け納得した。現理事長が就任された時に、当時の私と同じ疑問を持たれたそうである。

設立の少し前、大谷光真前門主にお目にかかった。途中で続かなくなったいくつかの事業を例に挙げて、「なるべく長期的な活動に心掛けて下さい」と述べられたのが印象的である。設立を準備する過程でも、法人として承認を得てからも、多くの困難な問題に直面した。すべて投げ出して研究生活に戻ろう、と決意した日もある。そのとき陰に陽に支えてくださったのが楠秀峰前事務局長である。同氏の励ましが無ければ、私は挫折していたに違いない。

JIPPOが最初に取り組んだのは、スリランカの紅茶をフェアトレード商品として販売する事業であった。スタディ・ツアーを企画し、その産地に赴いた。宗派仏教婦人会総連盟のダーナ献金をいただき、産地のハプタレー市立幼稚園の教室を建設し、児童との交流活動を行った。スリランカを最初の活動地に選んだのは、私が足かけ10年以上現地に在住し、シンハラ語に通じていたからである。この体験から、スリランカ事業をもっと推進したい、と考えた。とりわけ衰退しつつある紅茶産業をプランテーションではなく、自立した農家経営に転換したいという生産者を支援したいと模索した。

その一方で、京都市内の野宿者支援事業、東日本大震災の復興支援、世界各地の地震や津波被災地支援など、JIPPOへの要請は多種多様にあり、定款

にきめた通り取り組もうとした。とはいえ、スタッフや予算は限られ思うに任せなかった。JIPPOの理事も、本願寺派の教化団体の長が兼任することが多く、JIPPOのために就任する方は少なかった。しかしながら、西脇、後藤、本多(故人)をはじめとする歴代の副理事長の中には、個人的な資財までも投げ打ってJIPPO事業を支えてくださり、感謝の思いは尽きない。

初代の専任スタッフであった榎木美樹さんは、2年後にJICAへ転職し、現在では名古屋市立大学の准教授として活動されている。個人的には喜ばしいことではあるが、小さなNPO法人が優れた人材を確保することは、たいへんな困難である。榎木さんの退職後、専任スタッフとして就任した高木美智代さんは、JIPPO諸事業のため八面六臂の活躍を続けている。他のNPO法人のように人員拡充が思うに任せないJIPPOでは、高木さんなしには存続できなかった、といっても言い過ぎではない。

長年の努力が実り、スリランカの紅茶産地では、「ワンゲディ・ペコー紅茶生産者組合」設立され、生産活動を始めている。この新しい生産組織が広く普及し、紅茶産業の将来を担うようになれば、JIPPOの10年の夢が実現する。スリランカ社会の最貧困層である紅茶の生産を担う人びとが、貧困から解放される日こそ、我がNPO法人を設立した甲斐があったといえる。

本稿を書き終えたあと、本多隆朗氏の訃報に接した。レイテ島のサンブラワン小学校落成式と戦跡を訪ねる旅に同行した。ご父君が戦死された激戦地でアジアの人びとと再び戦火を交えることがないようにと念じられていた姿を忘れることができない。

2017年度 年次報告

Contents

7頁	活動報告
8-9頁	会計報告
	会員現況
	寄付者一覧

海外支援事業

2017年度の海外支援事業はスリランカに絞り、ハンドメイド・ティーの開発支援を本格化させました。これは紅茶を栽培する小規模自営農民の自立を図り、地域の茶業を振興することを目的としています。植民地時代から続くプランテーションによる生産とは間逆の村落レベルの新たな試みとして、スリランカ国内のメディアにも注目されました。民際協力を推進するJIPPOらしさを発揮し、地域発信型のパイロット・モデル事業になるよう進めています。



ワンゲディ・ペコーのワークショップ

恒例のスタディツアーは夏にスリランカ、春にネパールを訪問しました。スリランカツアーではワンゲディ・ペコーの紅茶づくり体験をはじめ、ホームステイやJIPPOが支援するハプタレー市の幼稚園で子どもたちと交流したりしました。ネパールツアーは、宗派僧侶らでチベット難民を

2017年度を振り返って

2017年度は、JIPPOが長年取組んできたスリランカの紅茶産業への開発支援を本格化させました。生産に携わる人々の貧困、差別はプランテーションの構造に起因すると考え、小規模な農家の基盤を強化し、プランテーション企業に依存しない開かれた地域産業の構築を目ざしています。実際の活動は「手づくり紅茶」という大変小さな生産方法ですが、スリランカ国内でも稀有な取り組みとして注目されています。

支援する団体「ダーナインターナショナル」との共同企画で実施し、ネパールのチベット難民の学校やネパール女性の人身売買被害者の自助団体などと交流を図りました。

国内での活動

国内では啓発活動に力を入れました。東日本大震災は発生後6年が経ちますが、被災地の人々の生活は復興半ばにあります。また災害の記憶や経験を伝えていくことがますます重要になっています。JIPPOは被災地の物産販売を続けており、南相馬産菜種油はその主力商品です。今期はその油を使った初の石けん作りを行いました。日曜学校でワークショップを実施し、子どもたちが被災地のことを学ぶきっかけ作りに役立ちました。また全国から野宿者とその支援者が一堂に会する「地域・寄せ場交流会」の運営協力や、各地の寺院や大学等での講演活動も積極的に行いました。



ネパールにあるチベット難民の寄宿学校「ナンギャル高等学校」の食事風景



京都府主催のエシカルフェアでフェアトレード商品や菜種油を販売

法人のあり方を検討

JIPPOは母体である西本願寺の財政的なサポートがいずれ終了することを見据え、組織の見直しが急務となっています。そこで、将来構想委員会を設け、法人の財政基盤の課題をはじめとする組織のあり方について議論を重ねました。

JIPPOは仏教の社会貢献を念頭に置きつつ、宗教にとらわれない本質的な活動を行い、宗派における国際協力の実施団体として役割を担ってきました。一方で設立当初より求められていた経済的な自立は思うように進んでおらず、宗派に依存した組織体制を変えていくためには、フェアトレードをはじめとする収益事業の拡充や、会員・支援者の増加に向けた活動が急務となっています。

年度内に結論を出すには至りませんでした。宗派の動向も鑑み、引続き検討を続けます。

2017年度 会計報告

2017年4月1日から2018年3月31日まで

(単位:円)

活動計算書 部門別損益内訳	スタディ ツアー事業	フェアトレード 事業	国内災害復興 支援事業	収益事業 部門(総括)	海外支援事業 スリランカ支援	海外支援 その他	国内貧困者 支援事業	啓発活動 事業	情報・広報 活動事業	NGO連携 事業	管理部門	総合計
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,766,000	1,766,000
受取寄付金	0	0	30,000	0	0	136,290	0	0	0	0	10,254,859	10,421,149
事業収益	482,130	2,326,432	774,984	0	0	0	0	0	0	0	0	3,553,546
その他収益	0	0	0	0	0	0	0	335,346	0	0	133	335,479
経常収益合計	482,130	2,326,432	774,984	0	0	136,290	0	335,346	0	0	12,020,992	16,076,174
(2) 経常費用												
人件費計	845,661	655,930	476,147	0	360,404	0	201,585	997,447	258,299	37,947	2,187,488	6,020,908
その他費用	1,004,570	1,826,768	867,707	0	30,440	0	112,456	212,941	135,467	227,672	2,621,344	7,039,365
経常費用合計	1,850,231	2,482,698	1,343,854	0	390,844	0	314,041	1,210,388	393,766	265,619	4,808,832	13,060,273
当期経常増減額	△ 1,368,101	△ 156,266	△ 568,870	0	△ 390,844	136,290	△ 314,041	△ 875,042	△ 393,766	△ 265,619	7,212,160	3,015,901
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 1,368,101	△ 156,266	△ 568,870	0	△ 390,844	136,290	△ 314,041	△ 875,042	△ 393,766	△ 265,619	7,212,160	3,015,901
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	70,000	0	0	0	0	0	0	0	70,000
当期正味財産増減額	△ 1,368,101	△ 156,266	△ 568,870	△ 70,000	△ 390,844	136,290	△ 314,041	△ 875,042	△ 393,766	△ 265,619	7,212,160	2,945,901

【使途等が制約された寄付等の内訳】

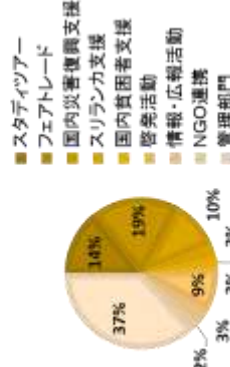
使途等が制約された寄付等の内訳は右記の通りです。

当法人の正味財産は15,661,633円ですが、そのうち1,631,094円は海外支援事業「途上国における子どもたちの健全育成をはかる事業」と「海外支援事業」及び「国内災害復興支援事業」に使用される財産です。したがって、使途の制約されていない正味財産は14,030,539円です。

2017年度 経常収益



2017年度 経常費用



内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
海外支援事業「途上国における子どもたちの健全育成をはかる事業」	1,464,804	0	0	1,464,804	
海外支援事業 上記以外の事業	0	136,290	0	136,290	
国内貧困者支援事業	93,330	0	93,330	0	野宿者支援にかかるとる事業費
国内災害復興支援事業	0	30,000	0	30,000	東日本大震災復興支援のための寄付金
合計	1,558,134	166,290	93,330	1,631,094	

2017年度 貸借対照表

2018年03月31日現在

単位(円)

2017年度 財産目録

2018年03月31日現在

単位(円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金	152,443
普通預金	15,874,652
商品	2,053,233
貯蔵品	70
未収入金	237,970
前払金	4,920
流動資産合計	18,323,288
2. 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	18,323,288
II 負債の部	
1. 流動負債	
買掛金	30,456
未払金	254,759
前受金	132,000
預り金	129,440
流動負債合計	546,655
2. 固定負債	
退職給付引当金	2,115,000
固定負債合計	2,115,000
負債合計	2,661,655
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	12,715,732
当期正味財産増減額	2,945,901
正味財産合計	15,661,633
負債及び正味財産合計	18,323,288

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	152,443	買掛金	30,456
事務所		フェアトレード	
普通預金	12,620,626	未払金	254,759
みずほ銀行	118,693	その他経費	
みずほ銀行(フォレスト事業)	3,135,333	前受金	132,000
ゆうちょ銀行振替口座	2,053,233	会費	
商品	70	預り金	39,695
貯蔵品		源泉所得税	89,745
未収入金		社会保険料	
フェアトレード事業	66,000	流動負債合計	546,655
スタデイツアー事業	171,970	2. 固定負債	
前払金		退職給付引当金	2,115,000
前渡交通費	4,920	固定負債合計	2,115,000
流動資産合計	18,323,288	負債合計	2,661,655
2. 固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	正味財産合計	15,661,633
資産合計	18,323,288		

会員現況 (2018年3月31日現在)

	件 数	内 訳	
		(個人)	(団体)
正会員	134	125	9
学生会員	15	15	0
賛助会員	206	185	21
合 計	355	325	30

2017年度 寄付者一覧

ご協力に心から感謝いたします (敬称略 五十音順)

【個人】
石原 由貴子 (大阪府)
板橋 愛 (愛知県)
梅本 萬里子 (和歌山県)
北氏 緋紗 (和歌山県)
雄郷 寛寿 (大阪府)
高木 良章 (鹿児島県)
三谷 艶子 (広島県)
南 昌宏 (山口県)

【団体】
京都女子大学市川ゼミ (京都府)
浄土真宗本願寺派 (京都府)
奈良教区教務所 (奈良県)
平和の集い (奈良県)
日本エンバワメント (東京都)
コンソーシアム (東京都)
八条幼稚園 (京都府)

JIPPO インフォメーション

本願寺御正忌報恩講
JIPPO バザー 開催

JIPPOでは、新年1月の本願寺御正忌報恩講に合わせ、バザーを開催します。今回の収益金はJIPPOの海外開発支援事業の活動資金とさせていただきます。ぜひ皆様お誘い合わせのうえ、ご来場ください。



開催日時：2019年1月12日(土)、13日(日)
午前10時～午後5時
場 所：西本願寺 境内(白州)
(京都市下京区堀川通門前町)

バザー商品の提供もお願いいたします!
★商品は新品又は未使用のものに限らせていただきます
贈答品(生ものは除く)、食器類、タオル類、衣類
食品(缶詰やレトルト等密封品)、洗剤・石鹸類等
※恐れ入りますが送料はご負担ください。
受付締め切り：2019年1月11日(金)

野宿の仲間が支え合い、
団結の餅をつこう!
第24回 もちつき大会

日時：2019年1月19日(土)
午前10時～午後2時ころ
場所：東本願寺の東側 噴水前
(京都市下京区烏丸通七条上る)

◆新しい年を皆で共に迎え、
仲間の生きる権利、住む権利、
働く権利を実現しましょう

前回のもちつき大会の様子



JIPPO スリランカ スタディツアー 参加者募集
中村尚司 が案内する
歴史と暮らしに触れる旅
～知られざるスリランカ～

紅茶づくり体験
野生の象に遭えるかも!?

《日 程》 2019年2月21日(木)～2019年3月1日(金)7泊9日
《訪 問 先》 コロンボ、キャンディ、ウバ、シーギリヤ
《主な内容》 JIPPO紅茶生産者支援の活動地での紅茶づくり体験 やプランテーション見学、キャンディ、シーギリヤなどスリランカを代表する世界遺産やスリランカ仏教寺院などを見学。現地の案内は、50年以上にわたりスリランカを研究し、内戦の和平交渉にも尽力した、中村尚司JIPPO専務理事が務めます。



シーギリヤロック

学生向けにホームステイプログラムも用意しました。スリランカの生の文化を体験してみませんか?

《参加費》 一般237,750円、学生202,750円(2名1室利用)
※別途、スリランカ査証代・取得代行料 7,000円、任意の海外旅行保険料が必要。

《定 員》 15人(最小催行人数6人)
《申込締め切り》 2019年1月11日(金)
《問い合わせ先》 JIPPO事務局 担当 高木

～事務局だより～

スリランカに行くことが多いので、「現地の言葉が話せるの?」と聞かれるが、実は全然だめだ。ホームステイで分かったのは、自分で覚えるより相手に日本語を教えた方が早い、ということだった。17歳の娘は単語や文法を覚えて、矢継ぎ早に話しかけてくる。1カ月ほどで家の中の話は日本語で事足りるようになってしまった。(た)

JIPPO会報第17号 (2018年11月1日発行)
発 行： 特定非営利活動法人 JIPPO
〒600-8501 京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル
本願寺門前町本願寺内
TEL：075-371-5210
FAX：075-371-5240
E-mail：office@jippo.or.jp
URL：http://jippo.or.jp